

高速バス運行会社が挑む、 「安全」を証明するためのデータ活用

ベイラインエクスプレス株式会社



データによる可視化で運行の安全品質を向上

WILLERグループの一員として、高速路線バス事業を展開するベイラインエクスプレス。デジタルタコグラフなどの機器から収集した、走行中の不安全データを地図上で直感的に表現し、運転士の教育や評価に活かす目的で、2019年10月にMotionBoard Cloud for Salesforceを導入した。運行の安全品質が向上し、リアルな運行データをもとにした運転士教育を実現している。

代表取締役 森川 孝司 氏 (写真中央) / 運輸部 マネージャー 宮澤 秀和 氏 (写真左) / 運輸部 教育課 チーフ 宮本 敦郎 氏 (写真右)

Summary

概要



背景・課題

- ・ 会社が求める“良い運転士”を定量的に示し、教育や評価に活かしたかった
- ・ どこで不安全運転が発生しているのか、ひと目でわかる手段がなかった
- ・ ITツールに不慣れな人たちにも使いやすくデータを可視化する必要があった



導入のポイント

- ・ 自動でリアルタイムにデータの集計ができる
- ・ 不安全データの発生場所を地図で表現できる
- ・ Salesforceとの親和性の高さを保ちつつ様々な切り口でデータを見られる



効果

- ・ 適切な教育ができるようになり、安全品質が向上した
- ・ リアルな運行状況をもとに“良い運転士”を把握できるようになった
- ・ 初めてのITツールでも簡単に使いこなせ、データの集計が楽になった

MotionBoard Cloud for Salesforce

Salesforceとシームレスに連携しSalesforce内のデータと社内のデータを組み合わせて可視化できるBIダッシュボード

運行中のリアルなデータをもとに安全品質の向上を実現

ベイラインエクスプレスは、首都圏と地方を結ぶ高速路線バスを毎日5路線26便、運行している。元来、高速路線バス業界では、数百キロに及ぶ長旅で記録されたアナログタコグラフ（運行記録用計器）の情報から、運転士の技量を推し量るのが一般的だった。しかし、これでは運転士の正しい評価はできないし、運転技術の向上に向けた適切な教育をすることも難しい。同社 代表取締役の森川氏は「ベイラインの考える『良い運転士』の定義を、定量的に示したい」と常々考えていた。

運転事業者として最優先すべき「安全品質」を高めるには、現状を客観的に評価するためのデータが不可欠だ。しかもそのデータは集計が自動的に行われ、一目で意味を理解できるものでなければならない。森川氏は、創業時から導入していたSalesforce



と親和性が高く、念願であった“地図を用いたデータの可視化”を実現できるMotionBoard Cloud for Salesforce（以下、MotionBoard）の導入を決めた。

ダッシュボードの構築にあたって白羽の矢が立ったのは、運輸部マネージャーの宮澤氏だ。データから運転士の癖や特性を見出し、それを次の運行に活かすにはどんな見せ方をすべきなのか。宮澤氏は、エンジニアリングを委託した日比谷コンピュータシステム社とともに、運輸部教育課で元運転士の宮本氏の意見も大いに取り入れながら、試行錯誤を重

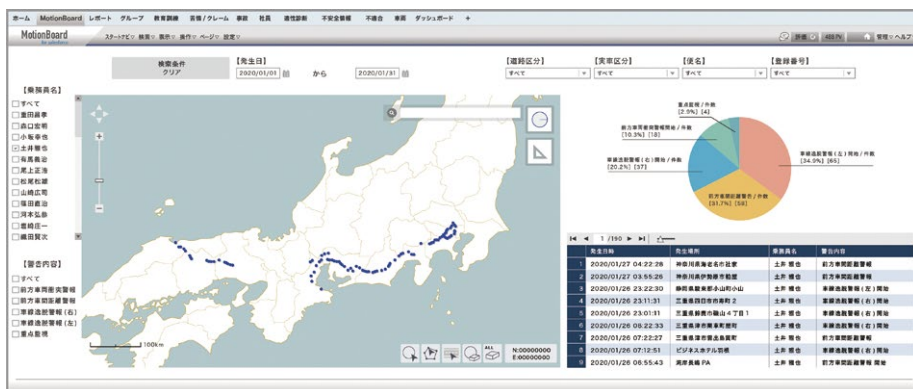
ねた。

結果、今では運転士が運行から戻ってくる度に、運転管理者とMotionBoardを見ながら、次の運行に向けた振り返りの時間を設けられるようになった。運行状況をデータで正確に把握できるようになったことで適切な教育が可能となり、安全品質が向上したのだ。

今後ベイラインエクスプレスでは、これまで蓄積したデータを活かし、そこから得た知見を次につなげていく予定だ。

運行ルートに沿って、地図上に不安全データをマッピング。

運行管理者は、運転士とともにこの「不安全データマップ」を見ながら、次の運行に向けて改善すべき点を指導していく。



実際の運行ルートに沿ったアラートがひと目でわかる「不安全データマップ」

※本画面ではサンプルデータを使用しています



ベイラインエクスプレス株式会社

設立 : 2012年
本社所在地 : 神奈川県川崎市
URL : <https://www.bayline.jp/>

中目黒バスと WILLER EXPRESS の合併会社として創業した、高速路線バス事業を展開する運輸事業者。首都圏と地方を結ぶ高速バス、「WILLER EXPRESS」を毎日5路線26便、運行している。

サイト内でより詳しくご紹介しております。



<https://www.wingarc.com/product/usecase/218.html>